

経済学(第6週)

前回 1-2-4(フローとストック), 1-3(国際収支表),
1-4(物価と失業率) のおさらい

- ・ フロー指標とストック指標
- ・ 国際収支 / 経常収支 / 資本収支
- ・ 名目値と実質値
- ・ 実質成長率と名目成長率

1

1-4-2 / 1-4-3 短期・長期概念と失業率

経済学における失業のタイプ

労働市場の需給調整が不完全 [短期]

… 非自発的失業者 の発生

労働市場の需給調整が完全 [長期]

… 非自発的失業者 はゼロ

自発的失業者

摩擦的失業者 は存在

4

(応用)物価指数の算定法

$$GDP_{(2012)} = \sum \{p^k_{(2012)} \times Q^k_{(2012)}\}$$

(p^k ; 財の価格, Q^k ; 財の数量)

基準年(たとえば、2000年)の物価を100としたとき、2012年(比較年)の物価がいくらであることを示すのが物価指数

数量(Q)の割合を、基準年(A)と比較年(B)で統一する2つの方法がある。(A)をラスパイルズ指数、(B)をパーシェ指数とよぶ、

2

準備学習: 短期分析と長期分析(p. 15、1-4-2)

短期 (ケインズ経済学的な世界)

物価が硬直的、数量による需給調整

→ 有効需要が経済の供給能力より小さい

長期 (伝統的[新古典派的]な世界)

物価が伸縮的、財の効率的な生産が実現

→ 所得は完全雇用が実現する水準に決定

5

1-4-1 物価指数の例

消費者物価指数(CPI)

企業物価指数(CGPI)

GDPデフレーター

3

第2章 短期の国民所得決定モデル(1)

2-1 45°線分析

2-2 政府支出増加の効果

2-3 投資水準の決定

テキスト対応範囲: p.19 ~ 26
(準備学習にp.15含む)

6

2-1-1 国民所得水準の決定

GDE(支出GDP)の構成要素

民間最終消費支出(C)

政府最終消費支出(G_C)

国内総固定資本形成($I + G_I$)

在庫品の増加(省略)

財・サービスの純輸出($EX - IM$)

$$GDE = C + G_C + I + G_I + (EX - IM)$$

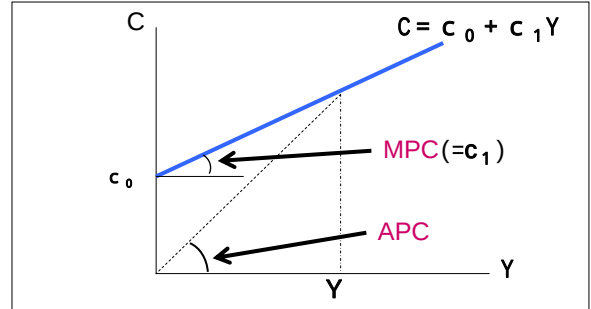
$$= C + I + G + (EX - IM)$$

$$G = G_C + G_I, \text{以下では}(EX - IM) \text{を省略}$$

7

消費関数のグラフ

消費関数



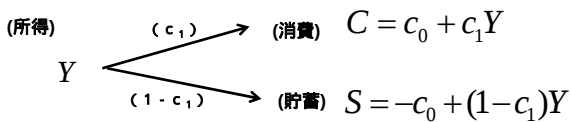
10

2-1-1 ケインズ型消費関数

$$C = c_0 + c_1 Y \quad 0 < c_0, 0 < c_1 < 1$$

C ; 消費, S ; 貯蓄, c_0 ; 基礎消費(独立的消費)

c_1 ; 限界消費性向(marginal propensity to consume; **MPC**)



8

2-1-1 貯蓄関数(租税を含まない場合)

以下では、貯蓄 = 所得 - 消費と定義する。

$$S \equiv Y - C = -c_0 + (1 - c_1)Y$$

限界貯蓄性向(MPS)

$$MPS \equiv 1 - MPC = 1 - c_1$$

平均貯蓄性向(APS)

$$APS \equiv \frac{S}{Y} = -\frac{c_0}{Y} + 1 - c_1$$

11

2-1-1 平均消費性向

(average propensity to consume ; **APC**)

$$APC \equiv \frac{C}{Y} = c_1 + \frac{c_0}{Y}$$

平均消費性向(APC)の値は、所得(Y)が増加すると小さくなる。

9

2-1-1 均衡国民所得の決定

投資、政府支出は一定($I = I_0, G = G_0$)

財市場の均衡国民所得(Y)を決定するモデル

$$Y^D = C + I_0 + G_0 \quad (\text{財の総需要})$$

$$= (c_0 + I_0 + G_0) + c_1 Y$$

$$Y^S = Y \quad (\text{財の総供給})$$

$$Y^D = Y^S (= Y) \quad (\text{財市場の均衡})$$

12

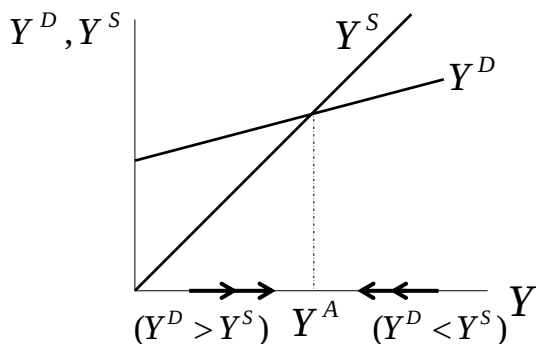
体系の解としての均衡国民所得水準

- 3本の連立方程式における内生変数 (Y^D, Y^S, Y) のうち、 Y^D と Y^S を消去

$$Y = \frac{1}{1 - c_1} (c_0 + I_0 + G_0) = Y^A$$

13

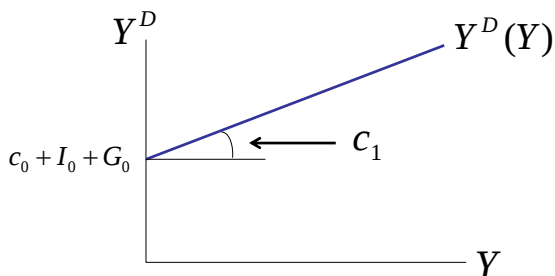
2-1-2 短期における財市場の均衡と安定性



16

2-1-2 総需要と国民所得の関係

$$\begin{aligned} Y^D &= C + I_0 + G_0 \\ &= (c_0 + I_0 + G_0) + c_1 Y \end{aligned}$$



14

練習問題 1

$$C = c_0 + c_1 Y$$

(c_0, c_1 は正の定数)

このとき

$$APC = \frac{C}{Y} = \frac{c_0}{Y} + c_1$$

$$MPC = c_1$$

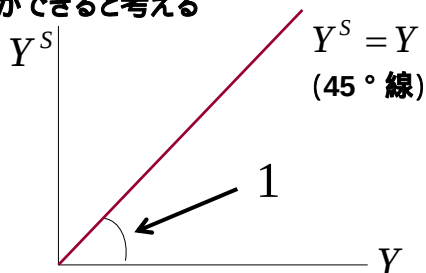
$$MPS = 1 - MPC = 1 - c_1$$

よって、正解は(ウ)

17

2-1-2 総供給と国民所得の関係

短期では、総需要の大きさに等しいだけの財が供給されるよう、企業が生産調整を行うことができると考える



15

練習問題 2

$$S = Y - (c_0 + c_1 Y)$$

$$= (1 - c_1)Y - c_0$$

に $(Y, S) = (1500, 50), (2000, 250)$

を代入して連立方程式を作り、解く。

答 : 0.6

18

練習問題 3

$$APS = \frac{S}{Y} = \frac{-c_0 + (1-c_1)Y}{Y} = -\frac{c_0}{Y} + (1-c_1)$$

$$= -\frac{75}{Y} + (1-0.4) = 0.35$$

をYについて解くと、 $Y = 300$

答：300

19

練習問題 4

Y	100	150	200	250	300	350
C	110	155	200	245	290	335

(1) $C = 20 + 0.9Y$

(2) $S = Y - C = -20 + 0.1Y$

(3) (2) より、 $-20 + 0.1Y = 25$

よって、 $Y = 450$

20

練習問題 5

(1) 乗数が $1 / (1 - 0.4) = 5 / 3$

だから、Yの増加の大きさは

$(45 - 30) \times 5 / 3 = 25$ …(答)(エ)

(2) モデルを解くと、 $Y = 500 / 3$

乗数が $5 / 3$ だから、必要な政府支出の増分は

$(200 - 500 / 3) \div 5 / 3 = 20$ …(答)(ア)

21